



▲認定書の交付を受けた各施設代表者のみなさん

方が介護用のベッド、器具などが整っている介護施設で生活していただき、安心した避難生活を実現したい。さらに地域ボランティアの連携強化で防災・減災へ対応できる体制を整えます」とあいさつしました。

防災・減災へ対応できる体制づくりを

災害時指定避難所認定書交付式

10月22日、災害時に高齢者や障害者などの災害時要援護者を受け入れる災害時指定避難所の認定書交付式を市役所にて行い、市内4施設に横尾市長が認定書を手渡しました。

指定避難所の認定を受けたのは、特別養護老人ホーム『天寿荘』（北多久町）、『ケアハウス大地』（同）、介護老人保健施設『ケアハイツやすらぎ』（同）、養護老人ホーム『けいこう園』（東多久町）の4施設です。

交付式では、横尾市長が「介護を必要とする避難者の

唐津市の避難者を多久市で受け入れ

佐賀県原子力防災訓練

玄海原子力発電所において事故が発生したとの想定で10月28日に佐賀県、玄海町、唐津市、伊万里市の主催で佐賀県原子力防災訓練が実施されました。

多久市には唐津市の住民の方や小学生がバス等により避難。県立産業技術学院でスクリーニング（放射線量検査）や除染の訓練を受けた後に北部小学校の体育館へ避難されました。

また、市に設置している可搬型モニタリングポストによる緊急モニタリング訓練や、災害時要援護者の避難訓練として、玄海町の福祉施設から『天寿荘（特別養護老人ホーム）』への移送訓練が実施されました。



◀唐津市から避難された住民の方（北部小）



▲災害時要援護者の避難訓練（天寿荘）

色とりどりの菊の花がお目見え

11/1

11月1日、市役所玄関ホールに北多久町の松瀬眞記さんが育てた菊の花約30鉢が飾られました。玄関の入り口から並ぶ白、黄、ピンクの色とりどりに咲き誇る大輪の花は見事で、3本仕立てや野菊などいろいろな種類も楽しめ、訪れる人から、「きれいだ」と毎年好評です。

松瀬さんは「1年中かけて、心から世話をして、大輪の菊の花を作り続けています」と語られました。展示中も毎日、菊への水遣りや花の交換など手入れをされ、常に綺麗な花を楽しむことができました。



南三陸町長 防災講演会

10/28

宮城県南三陸町の佐藤仁町長が多久市を訪問し、市長に職員派遣支援のお礼を伝え、「南三陸町の被災実態と復興への挑戦」と題して防災講演会を行いました。地震および津波で813人の人的被害(人口の4.6%)、公共施設等の大半が壊滅という状況下の復興への取り組みを説明。仮設住宅暮らしの長期化や人口の流失など、復興に向けた課題は山積しているが、「全国からの派遣職員が復興業務に協力いただき感謝しています。10年後の再建に向けて頑張っていきたい」と語られました。

